

極限条理普遍化体系




僕のクラスに
類人豚の女の子が入ってきました。



※類人豚：ヒトに近い姿を持つ豚。
知能も高く、言葉も話せるため、仔豚のうちは学校へ通わせるべきという風潮がある。
基本的に愛玩動物ではないので、服を着せることは非常識とされている。
繁殖力そのものはさほど高くないが繁殖欲が強く、常に発情していて、
人に対しても催淫効果のある体液を分泌する。

豚なので肉づきがいいのはもちろんなのだけど
この豚ちゃんの特におっぱいが大きくて、
類人牛なみの爆乳を重そうに抱えていました。





自己紹介の折、
全てをアピールしなさいと先生に言われ、
豚ちゃんは恥ずかしそうな顔をしながら
性器や肛門まで開いて
僕たちに見せました。


類人豚の性器は人間のものと変わらない外観をしていますが、
愛液の分泌量が非常に多く、ぐしょぐしょに濡れて
いやらしい匂いを放っています。
もちろん男子は全員勃起しました。
パンツの中で射精してしまう子も何人かいたようですが、
僕はなんとか耐えました。

休み時間になると、さっそく僕たち男子は豚ちゃんとの親睦をはかるためみんなで順番にセックスすることになりました。

くじびきで僕は7番目になりましたが、みんな豚ちゃんの膣に挿入すると1分足らずで射精してしまうので、僕もすぐに豚ちゃんとセックスすることができました。

類人豚の膣はとても締まりが良く、膣壁の起伏も絶妙で
ヒトの膣よりも気持ちがいいと
聞いたことがあります。が、
それは事実でした。

僕は友達のお姉さんと何度かセックスさせてもらったことがあり、
すごく気持ちよかったと思いましたが、
豚ちゃんの中はそれよりはるかに気持ちがいいです。
僕も前の6人と同じく、あっというまに
豚ちゃんの膣内に射精してしまいました。
(もちろん類人豚は人間の精子では妊娠しないので、生で中出しし放題です)



15分の休み時間で男子16人全員がひととおり豚ちゃんとのセックスを済ますことができたが、
精通したてピチピチの僕たちが1回の射精で満足できるはずはありません。
次の休み時間になるとすぐに2巡目を始めました。
順番を待ちきれない子たちは、お口でしゃぶらせたり、
大きすぎるおっぱいにはさんでばいずりしたり、
ポジションを工夫して肛門に挿入したりして
豚ちゃんの全身に射精しまくりました。
豚ちゃんの放つフェロモンを吸っていると
精巣が活性化してもものすごい勢いで新しい精子が
作られていくようで、何度射精しても
枯れることはありませんでした。




女子たちは、男子の人気(?)を一身に集める豚ちゃんに嫉妬し、いじめの対象に決めたようでした。陥没乳首を矯正してあげると言い、無理に引っ張り出してクリップではさんだり、常にだらだらと垂れ流している愛液を止めてあげると言い膣口や肛門、はては尿道口にまで、栓と称して異物をねじ込みまくったりしていました。

また、豚ちゃんが人間用のトイレに入るのを禁止し
「メスブタ用便器」と書かれたバケツを用意して
みんなの見てる前で排便を強制しました。

類人豚のうんこは臭かったけれど、そこにもフェロモン物質がたっぷり
含まれているようで、僕たちは豚ちゃんの放尿脱糞姿を見て興奮しました。


女子たちは、4年生のクラスにいた類人豚の男の子を連れてきて、仔豚同士の交尾ショーを始めます♡と面白そうに言いました。ケダモノ同士の汚らわしいセックスを見せることで、男子たちが幻滅するのをねらっているようです。

オス豚くんは僕らのメス豚ちゃんの姿を見るとものすごい勢いで勃起し、僕の3〜4倍はありそうな巨根から精子混じりの先液をびゅるびゅると噴き始めました。メス豚ちゃんの方も息を荒らげ、いつもより多く愛液を流しています。



確かに仔豚同士の交尾はすさまじいものでした。お互いに必死で腰を振り合い、豚らしく本当にブヒブヒと鳴きながら何度も何度も絶頂に達しています。

極太のちんぽをくわえ込んだ膣口のすき間から、ドロツと濃い精液が大量にあふれ出します。オス豚くんはすでに(誇張でなく本当に)何リットルもの精液をメス豚ちゃんの膣内に放出しているようですが一向に交尾を終わらせる気配はなく、腰を打ち付け続けています。




メス豚ちゃんもやはり人間とのセックスより豚同士の交尾の方が気持ちいいらしく
両脚をオス豚くんの腰にがっちり絡めて
ぶひいつ、ぶひーつ、と鳴きながら嬉しそうに顔を振っています。

顔の筋肉が弛み、目の焦点は合わず
よだれや涙はもちろん鼻水まで垂れ流しています。汚い。
そのうえ、ふたりとも快感のあまり時々おしっこや
うんこまで漏らしています。本当に汚い。

汚らしいことこの上ない有様でしたが、
そんなことはお構いなしに……いやそんな有様だからこそ、
僕たちは異様に興奮していました。
我慢できなくなった男子は勃起したちんぽを取り出し
仔豚たちの交尾を見ながら必死にすごっています。

女子たちの方も興奮していて
あふれ出した愛液が流れ、内もみがぬらぬらと光っている子が大勢います。
さらに、尿を漏らしてしまっている子や、
構わずパンツをずり下げてオナニーを
始めてしまっている子さえいました。





豚ちゃんは妊娠し、前よりもっと膨らんだおっぱいから母乳を出すようになりました。

豚ちゃんのミルクを飲んでセックスすると普通より気持ちがよくて、男子はみんなますます豚ちゃんの虜になっていきました。



豚ちゃんのミルクは女子にも効くので、
飲ませてもらっているうちにだんだん
豚ちゃんと仲良くなる女子が増えました。

ミルクを飲んだ女子は
僕らにオナニーして見せてくれたり
順番待ちの男子とセックスしたりして
（ミルクを飲んでると人間同士でもかなり気持ちいい）
クラスみんなの親睦が深まっていききました。

豚ちゃんを通じてクラスみんなが兄弟姉妹になったのです。
めでたしめでたし♡

類人豚のお話は
以前にも描いた
ことがあります。



非現実倫理
矯玉機構

成年
コミック



ぶっちゃけ内容は
同じようです(笑)

極限条理普遍化体系

発行日：2011年8月14日

著者：みむだ良雑

サークル：三村生恵

E-Mail：mimuda@microdat.rdy.jp

URL：http://microdat.rdy.jp

印刷：にじいろのもりADルーム様♡

※無断転載禁止

それが、みむだ良雑の遺作となった——

